



寸長の舟の書集あつてもものほしく
手恋く世らるるそふ大空哉
そはふむむりふなるにゆるむと彼も
深是くは鳥く魚魯目の得り
のんち乃遠自然なるなり
何と秘をすくはし某大人の校正

とほ再び家ノ極木ノ彫雅れ
遊人ノ常小是と
とぬり連と依とのあちあさ
妻は中段の深と利お乃柱
至るるとは一卷は林よ奈奈を
とんむは殿はくまも日と

いし^{あひ}成^{なり}あ^らん^{こと}車^ま走^はや^お羽^は乃^{なる}

本^{ほん}意^い平^{へい}と^と我^{われ}と^と河^から^らめ

真^ま和^わ二^に成^{せい}年^{ねん}一^{いつ}季^き權^{けん}

換^か英^{えい}信^{しん}堂^{どう}主^{しゅ}人^{にん}

西田清誌

仇^あ清^{きよ}袖^{そで}の^のう^う夏^{なつ}

○四季^{しき}乃^の何^{なに}

正月^{しょうげつ} むのき 端月 太^{たい}祭^{さい}月^{げつ}

え日 ^え え ^え 朔 ^{しやく}	明 ^{めい} の ^の 去 ^き	乃 ^の さ ^さ の ^の 去 ^き	花 ^{はな} の ^の 去 ^き
君 ^{きみ} の ^の 去 ^き	四 ^し 方 ^{はう} の ^の 去 ^き	玉 ^{たま} の ^の 去 ^き	去 ^き
そ ^そ の ^の 去 ^き	そ ^そ の ^の 去 ^き	そ ^そ の ^の 去 ^き	視 ^し 日 ^{にち}
初 ^{はつ} 日 ^{にち} の ^の 去 ^き	そ ^そ の ^の 去 ^き	こ ^こ の ^の 去 ^き	う ^う の ^の 去 ^き
あ ^あ の ^の 去 ^き	初 ^{はつ} の ^の 去 ^き	包 ^{たふ} 井 ^い ひ ^ひ	う ^う の ^の 去 ^き
う ^う の ^の 去 ^き	急 ^{いそ} ぐ ^ぐ	急 ^{いそ} ぐ ^ぐ	急 ^{いそ} ぐ ^ぐ

すしめの子	ねむし	法多	弱
くぬまの子	小	樟	るび
このこ	こ	床の角	た
猫の	そ	こと	田
田	つ	こと	麦
う	く	さ	萩
ぼ	く	菜	大
あ	う	つ	と
つ	い	ぜん	つ
い	い	ま	う
さ	く	の	さ

あ	ま	こ	や
ざ	つ	つ	あ
鬼	お	な	視
う	ち	い	運
中	い	こ	田
細	舟	用	い
出	二	日	

三月 瑞生 姑 洗 中 姑

上巳 ひま 雑遊 祝湯 湯候 曲水
 とりありせ 八十八夜 ころれあね ころれあね

早も他の花	りくまふけ	深丁花	さきさき
犬さくら	杏の花	さりのむ	さきさき
よもぎの花	さくら花	さくら花	さくら花
七重花	けしきん	兼うら	兼うら
藤の花	あさふ	少ら	つばき
こぎのこ	ぼけの花	もぎ花	つばき
めうぎ	まき	くこ	まき
つばき	うこそ	まき	まき
くつ	母子葉	まき	まき
まき	一敷	ち	あん
りの葉	りの角	つる	あん

あさ	洋	畔	野
さくら	け	ら	ら
まき	夏	ま	ま
まき	ま	ま	ま

四月 卯月 乙酉 中呂 余月

あさ	ふ	あ	さ
あ	け	ま	つ
さ	ら	き	ま
あ	ら	ら	ら

五月

さくらき くらげ花日 くらげ月 薤 實

智 午 せうぶく せうぶく せうぶく せうぶく

あやめのほ せうぶく せうぶく せうぶく せうぶく

かざりくさ せうぶく せうぶく せうぶく せうぶく

紙のゆり 葉の日 せうぶく せうぶく せうぶく

さくらまき かせけい せうぶく せうぶく せうぶく

せうぶく 梅 せうぶく せうぶく せうぶく

かざりくさ けうけい せうぶく せうぶく せうぶく

糸の花 けうけい せうぶく せうぶく せうぶく

糸の花 けうけい せうぶく せうぶく せうぶく

ゆり 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

さくら 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

まき 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

あやめ 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

梅 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

あやめ 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

ゆり 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

くものま 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

くいのふ 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

ゆり 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

ゆり 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

ゆり 鬼ゆり 娘ゆり 夏まきく 石 けい

麻のみ へんまふた

六月 且月 瓜胡 林鐘

山 妙室 妙りら 山 妙室 妙りら 山 妙室 妙りら

夏 川中 抱うど 夏 川中 抱うど 夏 川中 抱うど

納 涼 行のこひ 納 涼 行のこひ 納 涼 行のこひ

うけ 考 あふき うらら うけ 考 あふき うらら

雲のこひ ころら 夕のころ 雲のこひ ころら 夕のころ

ふ坂 虫二 玄利十 さるひ井 一敷 湯

アムンと あつと 一敷 湯 一敷 湯 一敷 湯

んち 仲ふまを しろ海地 くらげ

夏川系 まんハ瓜 いらさ 瓜 ひめ瓜

わー瓜 かんちうびく まきうべ かんち

知やうえん さき草 きらん草 まぼろし

つこの花 葛のたな あい刈 川原の

母どこの ひしの花 蓮の花 いらさ

菫の花 いらさ刈 ひあまぎの巻 ふ日取

やまやうら かきものむ 紙すき草 竹の皮

めうが そうもちやく 夏むし 穴そり虫

ここの虫 糸うひびく 川 川 川

さむね 青ほづき まきさげ 枝の花

やあゝ	やうどろ	木つつき	うり	ひこ
ろくろの文	厂の仗	扇のこま	麻	麻笛
麻乃意	小男し	たせりり	まきさゆ	
太刀の魚	くしめ	しらこ子	しらこ	
さきさき	ひこつけ	かぶる	さびあゆ	
おらあゆ	アヤア	うらま	おこ	
りらら	まきゆ	あうり	四	
かきし	きりり	あうり	海	
川板	いりり	田	い	
いあし	八つ	田	毛	見
くく	遊	花	花	ん

花	花	花	花
す	す	す	す
藍のむ	まん	つゆ	百
けい	せん	つづ	あ
日ま	ら	松の	い
ひ	ら	秋	は
う	ら	あ	あ
い	ら	あ	あ
そ	ら	あ	あ
あ	ら	あ	あ
さ	ら	あ	あ

大根まき	かじりまき	あまのあ	ぬまき
ずいまき	ぬりご	あじき	く海らや
くせうり	どうぶごのむ	ゆいさる	おきり
ぐいあ	らり	あぐり	りま
あぶき	うでうき	はぶき	こ孫り
つーかさ	いさ	きんあん	秋つ
くさ	いさ	まのころ	らん
まのさけ	氣さけ	天狗さけ	あさけ
あまのさけ	彩酒	くさ	中くみ
よどり酒	ひやう		

九月

長月 終る月 素秋 無射

重陽	まきよみり	らよの葉	うり節白
菊のさへん	菊のさへん	九日小袖	秋のりや
室の市	十三夜	ほの月	くり名月
二女の月	夜うつき	菊	まきりあせ
まきよみり	せうく菊	金目あき	くさ
こうひまき	おさ	着まき	まき
うしうれ	帆	ちる	あ
くさ	あ	木の葉	らん
金らん	九年母	ぶら	か

根 売 急のこ 袖 子 ゆいそ
ざくろ さらめこ あん天のこ どんろり
せんごんこ いちらお 紫せうご ちあろりこ
うきうき 巾のや せくしあ 何ろあ
くづれあ ちん時 夜 き せいぎ
うきき 細 き や 寒 ときあ
よみぎ おしあこ 母山の傍 の山のろ
あろあま 出ろりり 畜舎と成 おおむ麻 つゆき
徳栗棚く ともちち ころころ ぬぎのころ くら
梅のちち 柿のちち つころあち くらしりち

くさりのら 経書神あろ 川のき くれの秋
秋あろー みるらき きて侍 妹ふあろ
九月

十月 小みお月 小春 陽月
小六月 泰正 應鐘

神あろり 神のさび 神のさよ 玄 猪
いのこ くらまふ せせよん 十 表
おあろり ちんこ 急いすろり 口 切
かひらき ころい 火とら 火をけ
うらう火 さんが じとろあ 岸やま
あろりり みるあ みるあ みるあ 志られ

冬乃子	さくふま	うんくろ	まつくらう
初 御	くたらつき	石 花	まみさう
くうの梅	太山志まき	つらの冬	みま梅
玉のうら	むろ 咲	かんまき	あしき
雪さう	いぞれ	いてふ	ゆま
ゆまき	伊	ちまき	まりの花
ゆまき	まのまき	あつの花	まきまき
ゆまき	車	うんまき	ゆまき
ゆまき	雪	まき	つら
ゆまき	雪	つら	こまゆり
ゆまき	雪	まき	たぬき汁

玉子 酒 みるれ 酒 何れ 酒 残 子
 中 あり 中 足 代 衣 くらり 喰

十二月 師 走 除 月 お 月
 う 西 月 殷 正 大 呂

しよのりら	正月の始	大京ごこ	めくら 梅
み奈天神	おら 葉	かんま	うんご
あし	うんま	まき	かき 葉
あし	おら	八月のま	まき 梅
あし	うん 梅	かんつ	かん
あし	あし	まき	れお
あし	あし	まき	あし

まづまうどあどいこらひし。のんり。まうど。ハ。さ
 去あり。○一。説。み。法。より。ハ。取。在。と。切。字。と。し。申。す
 ト。悔。し。ト。あ。ど。い。ふ。ま。う。の。よ。を。こ。ら。ひ。の。し。こ。そ。て
 切。字。あ。ふ。せ。ざ。り。る。り。も。あ。り。師。傳。ふ。し。う。え。り。
 ぬ。花。さ。き。ぬ。月。も。お。ぬ。あ。ど。い。花。咲。月。の。お。く。る。り
 と。つ。の。お。り。ん。ぬ。そ。く。切。字。こ。あ。り。ぬ。風。ふ。ぬ
 む。ぞ。い。ぬ。よ。か。よ。い。ぬ。の。ぬ。そ。く。切。字。ふ。あ。ら。ん。だ
 下。切。の。切。字
 よ。せ。よ。ま。よ。な。り。ま。う。ま。う。へ。と。く。け。ゆ。け
 て。め。て。ま。て。せ。ま。ま。せ。め。ま。ま。の。糸。き。ぬ。り。子
 れ。く。れ。れ。れ

け外二字切三字切二股三股の切ハ初ム乃
 用よあしざれバ一ツよあるさだ

○ 季二用

季と雑ふある例

表父入 出りつり ぶぐん 表入 是ハ發句に
 ぶれがまし 附合ふあは 明達とこしきうさだ
 かるよつまそく 表秋
 節句のあつにつれての表及秋一うたまあつて
 雑よあらし
 中住 奪 峰 木の葉 表一うたまあれてハ 雑と表之
 おしきり 鴨 登りのあまし 一うたまあてハ 雑し
 やう白 白のつまそく 表秋一うたまあれハ 雑し

祭 四垂の名目ありハ勿論おろたつれてゐるよ
まつりといひてもそまよりのつべー一りぞゑんまこ
ぬえ 風呂 扇 うらひ 清水 汗
登りてうしてまゐり平のあしそハ難し
おろし 草七 油 あらうのハまゑく平のよそ
難しもかゝるべー
けさふあまこり一坐乃 最後よよまべー

○同字別吟

春日よ 春も日と 菟 けさの せうまき 勅命にいのち
中よ あらる 南世よま 孫 院よ つよく

関白にせま 横よ 一あー けさの せうまき
これよよかぎるまゝべれそもあつはまよそ
解いあぞくろく志るべー

○こゝろ合渡り 古式

月よ 帆花よ つ月や けさの せうまき
弓矢よ 船ハ 舟の 船くり
明よ あらるまよ 持あざる 足よ 踏
あゆむていつを 舟の 船くり
鼻よ 舟くいつり 穴よ 壺 ますまき
待よ 船 待 舟の ますまき

のりこふよはあやみよ及たるあど
こやこよは文ハ二りの去そりし
食し飯米よしらるこぞりし
の襦よハ幡之りの去るべし
父母よ伯父伯母あしやかろくつ夜
又のよはこらひこらよ去し
風炉よ風名自しよ他屋やうさ
茶の花よもこらよ去るべし
つりつりつりつりつりつりつり
こらよ自るハこらよさりし

胡よらよ虫のよきものり声よよ
康よは終康よこ句去るのり
衣重のや竹田のりさり及るあし
月松まろろ毎ハみりの去
堂よも垣よもろろや物よ襦
石よ志尊七句去りあり
山ろろら甲よき馬よ一騎あど
物よよまぶさよ七句去るべし
人里の道ろれろろや火よこら
あよは御年ハ七句去るあり

神のこゝろは門や大なる
公(神)のこゝろは七の白き
神のこゝろは白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き

若舞の渡丸又や
男の渡丸又や
妻の妹のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き
神のこゝろは七の白き

かひいし痛りこよ 運くさ
油燈しきまハ折きし
手つた代し帝字や勅使し
伶人よ音折をきし

○同新製

翠也も風も何れも海川も
沖沢磯もこり去あり
馬車中奥茶酒飯と候
一室よ二りの定こりあり

飯鐘とまの魚の美名は
脊骨虫の美体敷と定め候
龍席も鬼もふりよし
かゝる美体ハ敷を定め候
子句一室よ一りあり
存燕柳をくし
菊もちりし
庭垣も何れも昔より神も
多も候もらし

泣く多し照つるも思ふるも植列も
 毒あつても起るも向ハツし
 目と鼻と耳の口は是れ類を
 打をくくくはにッも何ぞんし
 網よ魚をよよ多やきこのや
 かくしも海苔も植物よ二百
 月の月よ月乾ころのよき
 てる月と月ありの去とく
 玉歌よ由ハ一おはもあれし
 ちるわりのよハツと社まけ

り終日よ六松さしりあふ思のりも
 りるしらしりのも去る場しは

○ 勺 数 去 嫌

春秋
 葭冬
 神祇
 ころはくきききみる去るべし
 むりもつづく二りのよてははせは
 ころつぎききころの又ハありの去
 平のよよてハ一のよそすてふ
 二白らりきききせはころのころ
 平のよよてハ一のよそすてふ

釋教

戀句

垂常

述懷

居所

二のより多しハせばこの去述懷
 廿五乃川合之ハこの去も
 二のよりみり去つてくこの去ハ
 五の去るべしこの去ハ捨に
 一のふてくるハかばこの去
 釈教川合之ハこの去もつて
 一のよて持てよしこの去川合
 てハこの去もすべし
 二のもつてくべしこの去体用
 二の去うてのふてもあり

人海

山類

水色

生類

植物

二のつてまきよく
 二の去りあり
 二のつてまきよ
 二の去り体用ハこの去よてゆを
 山のよ同く去り嬌よ
 此の去りりりりりて二の去り
 二のよはくくこの去し個を
 此のよどくりりて二の去
 二のよつてくまきよハこの去
 此のよつてくりりて二の去し

書体 火体 病体 名所 旅体

一ろくまきく持へしこらるまきく
筆よとんごくあど二ろくし
一ろくまきく持へしこらるまきくし益成
あどとんごくあど二ろくまきり
二ろくまきくつぐん四めりの備へし
病よと針をりもこらるまきへし
二ろくまきくつぐんこらるまきりしとぎし
名所の虫乃名あ二ろくまきり
二ろくまきくつぐんしこらるまきりし
りまきくとん備へかりりてこらる

字

行しこくまきく二ろくまきりしとぎし
こらるまきりし

○百韻の式

初表八句

七月月

裏十四句

九月め月
十三句め月

二ろ十四句

十一月め月

二ろ十四句

初ろ
同

三ろ十四句

二の替りてふ
同

三ろ十四句

二のうらふ
ある

名ヲ十匁 同三の抄りてよ

名ウ八匁 七匁目花

○ 米守

初表八匁 月七匁目

裏十二匁 七匁め月十匁め花

二ヲ十二匁 月十一匁め

二ウ十二匁 初十一匁め

三ヲ十二匁 同二表よ

三ウ十二匁 同二ウよ

名ヲ十二匁 同三の抄りてよ

名ウ八匁 七匁め花

○ 七十二候

初表八匁 月七匁目

裏十二匁 七匁め月十匁め花

二ヲ十四匁 月十一匁目

二ウ十四匁 同十一匁目

三ヲ十四匁 同二表よ

三ウ八匁 七匁め花

○源氏行

初表六夕

五夕め月

裏十二夕

七夕め月
十一夕め花

二ヲ十二夕

十一夕め月

二ウ十二夕

初ウハハ

三ヲ十二夕

二の掛りてみ

三ウ六夕

み夕め花

○四十四

初表八夕

七夕め月

裏十四夕

九夕め月
十三夕め花

二ヲ十四夕

十三夕め月

二ウ八夕

七夕め花

○哥仙

初表六夕

五夕め月

裏十二夕

七夕め月
十一夕め花

二ヲ十二夕

十一夕め月

二ウ六夕

五夕め花

○長哥行

初表八分 七ヶ月

裏十六分 九ヶ月
十ヶ月
花

二ラ十六分 七ヶ月

二ウ八分 七ヶ月
花

○短哥行

初表四分

裏八分 一ヶ月
七ヶ月
花

二ラ八分 七ヶ月

二ウ四分 三ヶ月
花

此撰ハ初とくへり懐宝乃く
あねバ一ツと甘く月形りの
たしあき 札家よりおりの
何れめとと席上のめり
附録しとて 妙字と書
きしりしとて 甘くたしり
たしり

わき帯乃杖をさしもふりひは
見え人至後帯の着をさあをさし
あうれ

延享元甲子秋

才長門人

倉橋芦中校

享和二壬戌年九月再板
文政四辛巳年十月補刻

两国橋通吉川町

山田佐助

神田怒り町二丁目

北島順四郎

江戸書林

